

令和3年5月28日

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催について（幹事長談話）

都民ファーストの会東京都議団
幹事長 増子 ひろき

国連事務総長が世界保健機関(WHO)において「戦争状態にある」と述べるなど、新型コロナウイルス感染症が引き続き世界中で猛威を振るっています。

日本国内においても、国の甘い水際対策もあり変異ウイルスが拡大し、全国の重症者数が過去最多を更新する事態となっています。ワクチン接種についても、国のワクチン確保の遅れや、本来は重点的に配分すべき大都市圏を十分に優先しなかったこと等も重なり、必ずしも十分には進んでいません。

都内の感染状況は、都民の皆様の多大なご協力により、なんとか踏みとどまっていますが、引き続き予断を許さない状況です。

このような中、私たちの最大の使命は、都民の命と暮らしを守り抜くことです。

これまでも私たちは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたっては、大会における安心・安全の確保、都民・国民の皆様の理解が得られることが何より重要であり、第一回定例会の代表質問においても、開催にあたっては無観客も含め想定すべきと提案してきました。

緊急事態宣言が引き続き延長され、都民・事業者の皆様が引き続き多大なご協力をお願いする中で、一部のIOCや政府関係者の発言から見受けられる、都民・国民の理解と共感を得ようとする姿勢は決して許されるものではありません。

新型コロナの感染状況は引き続き予断を許さない中で、都民の命と暮らしを守り抜くためには、科学的・論理的な分析に基づき、再度の延期も含むあらゆる選択肢を視野に入れるべきです。私たちは、こうした視点のもと、今後の感染状況などについて、都民・国民の皆様の理解と共感を得ながら判断していくことこそが「都民ファースト」の姿勢であると考えます。

私たち都民ファーストの会 東京都議団は、引き続きこうした姿勢を堅持し、まずはこの緊急事態宣言下において感染拡大を抑え込むべく都民・国民の皆様とともに全力で取り組んでいくとともに、状況によっては大会のあり方そのものを検討し、都民の皆様のご理解をいただけるよう行動して参ります。